

# 日本結核病学会東海支部学会

## —— 第124回総会演説抄録 ——

平成26年11月29・30日 於 アクトシティ浜松コンgresセンター（浜松市）

（第106回日本呼吸器学会東海地方学会  
第9回日本サルコイドーシス/肉芽腫  
性疾患学会中部支部会 と合同開催）

会 長 丹 羽 宏（聖隷三方原病院呼吸器センター外科）

### —— 一 般 演 題 ——

#### 1. 気管・気管支結核の1例 °笠原嵩翔・伊藤貴康・高木達矢・水野秀和・堀尾美穂子・齋藤裕子・松本政実（一宮市立市民病呼吸器内）

症例は38歳女性。2013年7月下旬より湿性咳嗽が出現し、近医にて抗菌薬治療を導入するも軽快せず、吸入ステロイド治療を導入された。11月にはLVFX内服を処方され、咳嗽が軽快してきた。同時期の採血にてQFT陽性であったため、肺結核の疑いとして当院紹介受診された。喀痰検査や画像検査にて肺結核と診断した。胸部CTにて気管、右主気管支壁の不整を認め、気管・気管支結核合併が疑われ、気管支鏡検査を施行した。気管と右主気管支を中心に、粘膜の発赤、びらん、一部白苔を伴う病変を認めた。標準治療により結核菌排菌停止し、外来にて治療継続しているが、気管支壁のびらは軽快傾向である。今回経験した本症例について若干の文献的考察を加えて報告する。

#### 2. 肺*M.kansasii*症の3例 °齋藤裕子・笠原嵩翔・伊藤貴康・堀尾美穂子・松本政実（一宮市立市民病呼吸

器内）

症例1：59歳男性、血痰にて受診。画像上肺気腫著明、右上葉空洞影を呈し喀痰抗酸菌塗抹培養陽性、DDH法にて*M.kansasii*を検出。症例2：67歳男性。肺結核後遺症、肺アスペルギルス症治療後経過観察中に血痰が出現。喀痰抗酸菌塗抹培養陽性、DDH法にて菌を同定し治療開始。治療中血痰を繰り返す、喀痰検査では抗酸菌陰性、*A.niger*を検出し肺アスペルギルス症の再発と診断。VRCZを開始。症例3：53歳女性。52歳時シェーグレン症候群と診断され、ステロイド使用中に右中葉陰影の悪化を認めた。気管支吸引液抗酸菌塗抹培養陽性、DDH法にて菌を同定。3例とも抗酸菌感受性検査にてRFP耐性は無く、HRE3剤治療を開始したが、症例3は基礎疾患の病状が不安定となりRFPを中止し、LVFXを併用した。喫煙男性に多いとされているが、症例3の女性は細胞性免疫低下状態にて発病した。症例若干の文献的考察を加えて報告する。